学会・研修参加報告

日本医療薬学会 2018年度海外研修成果報告書

奥羽大学　薬学部　医療薬学分野　教授
中川直人
Naoto Nakagawa

私は首記の海外研修派遣の機会をいただき，2018年5月19日～23日の期間において米国ボルチモアで開催された2018 International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research（ISPOR）でポスター発表してまいりましたのでその報告をいたします．

ISPORは医療経済/薬剤経済に関する国際学会の中で最も大きい学会です．私がこの医療経済/薬剤経済について研究を始めたきっかけは，米国Nova Southeastern University College of Pharmacy（NSUCOP）に留学していた時の10年ほど前にさかのぼります．Pharmacoeconomicsという教科が米国の薬剤師教育において教授されていました．留学前の私は病院薬剤師および薬局薬剤師として実務に従事していましたが，当時から薬剤師による介入の成果を医療経済学的な視点で検討することの必要性は職能団体の雑誌などで叫ばれていました．しかし，私はその方法論を学ぶ場がなく，自学で行うのも適切な書籍があまりなかったこともあり，私自身気になっていた用語でしたが実践するまでには至っていませんでした．

私はNSUCOPのPharmacoeconomicsの講義で医療経済/薬剤経済の基本的な考え方は理解することができました．しかし，研究対象として取り組んでいくにはまだ理解が乏しいところがありました．幸い，この科目を教授されていたNSUCOPの教授とは入学したころから親睦を深めていましたので，日本に帰国してからも自学で理解できないところや実際のデータ分析の方法などについて，メールでやり取りしながら理解を深めていくようにしました．

帰国後は，大学病院内の会計データと薬剤部における臨床研究の結果を活用して医療経済/薬剤経済に関する初めての論文を日本の雑誌に投稿しました．ところが3回リバイスの指示を受けながらリジェクトとなりました．この時の論文は別の雑誌ではありますが，おかげさまで発表することはできました．当時は，私自身の研究能力が未熟であると自分に言い聞かせていました．気持ちをいれかえて取り組んだのが，今回のISPORにおいて発表を受理された「日本におけるMRSA肺炎における抗MRSA薬の費用最小化分析」でした．その発表内容を以下に簡単にお示しします．

MRSA肺炎は生命の予後にかかわる疾患であるため，抗MRSA薬を適正かつ効果的に使用することが重要です．日本化学療法学会ガイドラインでは，バンコマイシン（VCM），テイコプラニン（TEIC），リネゾリド（LZD）が，MRSA肺炎に対する第一選択薬とされています．日本では，薬剤経済的評価の検討が乏しいため，どの抗MRSA薬がMRSA肺炎に対して薬剤経済学的に優れているか不明です．院内肺炎に対するこれら3剤の臨床効果を検討したメタアナリシスでは，LZDはグリコペプチド系との臨床効果に違いは見られないと報告していることから，費用最小化

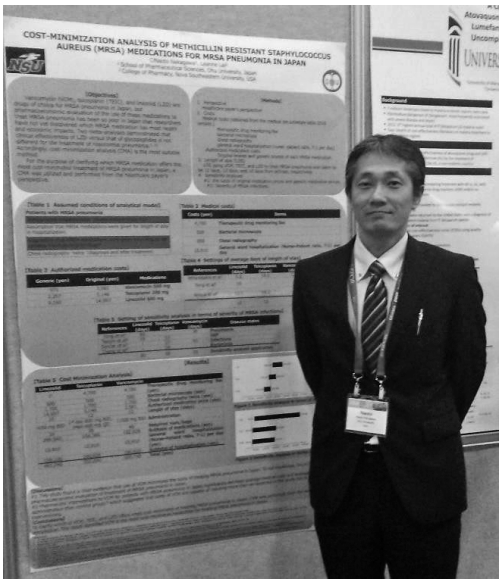

図 1　ポスター発表

図 2　SHORT COURSE の看板（白枠で囲った部分に SHORT COURSE とあります）

分析が適切であると考えられました．そこで，MRSA 肺炎においてどの抗 MRSA 薬が最も少ない費用で治療できるかを明らかにすることを目的として，医療費支払者の立場から検討しました．医療コストは，2016 年度の保険点数を用いて，特定薬剤治療管理料，細菌顕微鏡検査，単純撮影（胸部），一般病棟（7 対 1）（1 日につき）としました．また，薬価も 2016 年度の先発医薬品および後発医薬品のものを使用しました．文献検索より，VCM，TEIC および LZD による MRSA 肺炎に対する治療期間はそれぞれ 12 日，12 日および 10 日と設定しました．感度分析は，薬価（先発品および後発品）および重篤度の観点から実施しました．その結果，VCM，TEIC，LZD の全コストはそれぞれ 320,748 円，352,200 円，461,240 円でした．感度分析の結果，VCM が最も費用が小さいことが明らかとなりました．ポスター発表した時の写真が**図 1** です．

私は国際学会の発表はこの時が初めてでした．実はこの内容を，ある日本の雑誌に投稿しましたがリジェクトされました．しかし，同じ内容で ISPOR にエントリーすると発表を受理されるという相反する経験をしました．これを踏まえて感じたことは，日本においては，医療経済 / 薬剤経済を正しく判断できる査読者がまだ少ないということでした．

ところで，ISPOR は私にとって非常に学びとなる有益な学会です．皆さんにご紹介したいことは，この学会は医療経済 / 薬剤経済の初学者・中級レベルの研究者にむけて，様々なセミナーを開催してくれていることです．学会開催前の 2〜3 日間に“SHORT COURSE”としてセミナーがあります（有料）．私が参加した時に申し込んだコースの開催場所入口に用意されたものは**図 2** の通りです．医療経済 / 薬剤経済の分析は確かに専門的な分析方法ではあるのですが，基本となるセミナーから応用編ともいえる Budget Impact Analysis（財政影響分析）についてのセミナーもあり，理解度に応じてセミナーで学ぶことができるので非常にありがたいです．今後は財政影響分析を視野に入れて研究の幅を広げていきたいと考えています．

薬剤師として国際学会で発表できる経験はあまり多くないと思いますが，その中で日本医療薬学会がこれを支援していただける機会があったことは私としても励みになりました．本学会会員の皆様もぜひ海外研修助成の制度を活用して，有益な学びの機会としてほしいと思います．改めて日本医療薬学会海外研修等助成のご支援に心から感謝申し上げます．

※編集注：本書の内容は研修当時の情報です．